# 第 16 講　社会契約説・啓蒙思想

## 1　自然法・自然権と社会契約説・啓蒙思想

### ①自然法・自然権および社会契約説

A　**王権神授説**

16 〜 18 世紀のヨーロッパは，**絶対王政**と呼ばれる専制政治の時代であった。王は貴族と大商人に特権を与える一方で，市民階級は抑圧されていた。イギリスのフィルマーやフランスのボシュエは，「王の権力は神との契約によって授けられたので統治権は神聖で不可侵である」と唱えた。

B　**自然法・自然権**

王権神授説を根拠に君臨する王に対して 17 世紀半ば〜 18 世紀に**市民革命**が起き，自然法・自然権・社会契約説は，その思想的根拠となった。

あ　**自然法**

いつ･いかなる社会でも，誰にでも通用する**普遍的な法**。これに対し，ある時代のある社会にのみ通用する，人が定めた法を**実定法**という。

※ドイツ三十年戦争の悲惨さを見た**グロティウス**（1583 〜 1645 年，**オランダ**）は『**戦争と平和の法**』を著し，神の存在によらず全ての人間がもっている理性こそ，いつ・誰にでも通用する自然法の源（みなもと）であるとして平和の重要性を説いた。彼は「**近代自然法の父**」「**国際法の父**」と呼ばれている。

い　**自然権**

自然法に基づき主張されるようになった，自己保存・自由・平等・所有などの諸権利。

※自然権の発想は，宇宙を支配する理法〔ロゴス〕があるとしたヘレニズム思想のストア派に始まり，神の恩寵（おんちょう）が自然を完成するとした中世スコラ哲学に継承されてきた。

C　**社会契約説**

本来，人間は個々に自由で平等であるが，秩序や平和を守るために，便宜上，社会や国家を形成する取り決めを行った，とする考え。

※社会や国家を形成する以前の状態（＝**自然状態**）から，契約を通じ自然権が保障された**社会状態**（＝国家や政府）に移行するとして，**王権神授説を否定**した。

## ②啓蒙思想

偏見に囚(とら)われた無知蒙昧(むちもうまい)な人々に理性の光を当て，従来の権威や先入観に基づく考えから解放しようという思想を，**啓蒙思想**という。宗教的権威や形而上学(けいじじょうがく)を批判し，近代科学による自然支配の発想を肯定(こうてい)した。

※ 17世紀後半，イギリスのロックを先駆けに，18世紀にかけて**フランス・ドイツ**などで展開された。18世紀は「啓蒙の世紀」とされる。

※いち早く議会政治を始めたイギリスと違い，絶対王政が続き，アンシャン＝レジーム〔旧制度〕の下で民衆が苦しんでいた**フランス**で，啓蒙思想は特に大きな意味をもった。

※さらに遅れていたドイツ・オーストリア・ロシアでは，啓蒙思想は革命理論にはならずに絶対王政と結びつき，君主主導の「上からの近代化」を進める啓蒙専制主義を生んだ。

---

# ２　思想家たち

## ①ホッブズ（1588 ～ 1679 年）

A　人物

**イギリス**国教会の牧師の子として生まれる。大学卒業後，名門貴族の専属家庭教師として各地を見聞しつつ，執筆活動を行った。**ピューリタン〔清教徒〕革命**（**1642 ～** 49 年）が近づくと，絶対王政擁護者と見なされフランスにへ逃れたが，パリで無神論者と非難された。革命のほとぼりが冷めた頃に帰国し，以後は王政復古の世に暮らし，生涯独身で任官もせぬまま91 歳の長寿を全うした。

B　**自己保存の欲求**

人間の最も基本的な欲求とは，自身の生命を維持・発展させようとすることであると考えた。

※この欲求を満たす権利は，人間が皆，生まれながらにもっている自然権である。

C　**「万人の万人に対する闘争」「人間は人間に対して狼」**

自然権を互いに無制限に主張し合う自然状態では，人間は必ず闘争を引き起こすと考え，平和と自己防衛のためには国家が必要であるとした。

※人間は，自分たちの自然権を放棄し，統治者に全面的に**譲渡**（じょうと）〔**移譲**（いじょう）〕するという契約によって秩序を実現しようとし，国家を誕生させたと考えた。そして，こういった経緯があることから，人間は強大な**絶対主義国家**に服従しなければならない，と主著『**リヴァイアサン**』に書いた。

※リヴァイアサンとは，『旧約聖書』に書かれた架空の海獣（かいじゅう）。

D　近代民主主義の先駆（せんく）

**ホッブズの思想は，結果的に絶対王政を擁護したが**，それまで国家成立の根拠とされていた**王権神授説を否定**し，**社会契約説を初めて唱えた**ことで，合理的な近代民主主義の先駆（さきが）けとなった。

## ②ロック（1632 ～ 1704 年）

A　人物

**イギリス**のジェントリ〔郷紳（きょうしん）〕と呼ばれる地主の子に生まれ，オックスフォード大学で哲学・宗教・医学を学んだ。王政復古時，ピューリタン〔清教徒〕だったため政争に巻き込まれ，一時オランダに逃れたが，**名誉革命**（**1688** ～ 89 年）後に帰国して新政府の高官となる。生涯独身を貫き，72 歳で死んだ。主著『**統治論〔市民政府二論〕**』『人間悟性論』。

B　**議会制民主主義**

ホッブズに影響を受けつつも，人間には**理性**が備わっているため，自然状態はそれなりに平和的であると考えた。しかし，人間は常に理性的ではないので，自らの**所有権**を守り，平和な生活を維持していくために国家をつくることで互いが同意した，とした。

※その際，法律を定めたり運用したりすることは政府に委（ゆだ）ねる（＝**信託（しんたく）**する）ことになり，国家は**間接民主制**をとるようになった，と考えた。

C　**抵抗権・革命権**

信託された政府が，生命・自由・**財産**に対する権力を乱用する場合には，人々はいつでも権力を取り返して新たな政府を樹立することができるとし，**名誉革命を正当化**した。

D　**権力分立論**

ピューリタン〔清教徒〕の立場から宗教的迫害に反対して，国家権力を**立法権・執行権・連合権〔外交権〕**に分立すべきと唱えた。

※フランスのモンテスキューらに影響を与えて**啓蒙思想の先駆け**となった。

## ③絶対王政下のフランス啓蒙思想家

A　**モンテスキュー**（1689～1755年）

イギリスのロックの権力分立論を模範に，権力が集中していた絶対王政を問題視し，『**法の精神**』を著して**三権分立**の重要性を主張した。

※彼は，国家権力を**立法権・行政権・司法権**に分け，それぞれを独立した機関に担わせることで，相互の**抑制**（よくせい）**と均衡**（きんこう）〔**チェック＆バランス**〕をはかるシステムの重要性を説き，それを欠くフランスの専制政治を批判した。

※『法の精神』は，その自由主義的な思想ゆえにローマ法王庁の禁書目録に加えられたが，アメリカ独立革命やフランス革命に多大な影響を与えた。

B　**ヴォルテール**（1694～1778年）

絶対王政を批判して投獄された後，イギリスに渡り見聞を広めた。帰国後に著した『**哲学書簡**』において，ロックが唱えた進歩的な政治制度や思想・文化の紹介を通じ，フランスの現状が遅れていることを批判，科学知識の尊重を主張した。

※特に伝統的偏見やカトリック教会の横暴に対し，**宗教的寛容**の精神について説いた。

C　**ディドロ**（1713～84年）・**ダランベール**（1717～83年）**→百科全書派**

科学的知識の組織的解明をめざし，学問や技術の成果をまとめた『**百科全書**』全35巻を刊行した中心人物で，人民主権・議会制民主主義・個人の権利保護などを唱えた。

※『百科全書』は，モンテスキュー，ヴォルテール，ルソーも関わり，**フランス啓蒙思想の集大成**ともいえるが，封建制を批判する内容が多かったため，編集中にフランス政府から幾度も発禁処分を受けた。

※途中，ディドロが無神論的唯物論に傾いていったことから，ダランベールら大半の思想家が離れたもののディドロが完成させ，世界の学問に多大な影響を与えた。

〈 ***Note*** 〉

## ④ルソー（1712～78年）

A　人物

**スイス**のジュネーブに生まれる。生後間もなく母を亡くし，少年期に孤児となり16歳から放浪。19歳から7年間，ある夫人の援助を受けて暮らし，正式な教育は受けず独学した。30歳で音楽家をめざして**フランス**のパリに出るが，貧しい生活を送る。『百科全書』で音楽項目の編纂作業に加わるも，理性より感情を重視して異端児扱いされた。のち，著書が危険思想と見なされフランスから脱出，各地で逃亡生活を送るが，イギリスで懐疑論のヒュームと不和になったことをきっかけに帰国。その後，孤独と貧困のまま66歳で波乱万丈の生涯を終えた。主著『**人間不平等起源論**』『**社会契約論**』『**エミール**』。

B　**「自然に帰れ」**→自然状態を理想化

「人間は自由なものとして生まれた。しかし，今やいたるところで鎖につながれている」と説き，自然状態における人間は，生まれつきの素朴な**自己愛**と**憐憫**（れんびん）**〔憐れみ〕の情**をもつだけで，虚栄心も，敬意も軽蔑も知らなかった，と考えた。相互の間に取りたてて経済的･法的なやり取りはなく，財産の所有や売買，それに伴う不正や，正義の実現の必要性といった観念も存在しなかった，とした。

※しかし，土地の私有を始めたことで社会に不平等がはびこり，争いがもち込まれた。そこで，身体や財産を守るために共同体の共通の意志に沿って政府を設立し，自分たちの権利を全面的に委ねることにした。ルソーにとって，これが国家の成立であった。

C　私的な**特殊意志**と公的な**一般意志**

人間は，私利私欲を**特殊意志**としてもっている。これらを集めたにすぎない**全体意志**は，何らの統一性もないため，自由で平等な社会の基盤には適さない。人々が**一般意志**（＝全員が賛成できる利害に関する意志）に自身を従わせることを互いに誓い合うことで，理想的な社会が実現するとした。

※ルソーは，利己的な特殊意志の総和として下される多数決による決断（＝全体意志）よりも，共同体全体に利益をもたらす一般意志に自ら従うことのほうが，自由としてより高度であると考えた。

D　**「一般意志は代表されない」**

ルソーは，一般意志は人民全体のものであるから，人民の主権は譲渡も分割もできないとし，絶対王政を擁護したホッブズや間接民主制を主張したロックを批判，**直接民主制**を説いた。

※**「イギリス人は選挙の時だけ自由だが，選挙が終われば奴隷だ」**と評した。

E　現代自由主義思想の先駆

ルソーの思想は，彼の死後に起こった**フランス革命**（1789 ～ 99 年）の精神的・理論的根拠になるとともに，現代の自由主義思想の形成に多大な影響を与えた。

---

# 第16講　倫理確認テスト

1　『戦争と平和の法』を著し，「近代自然法の父」「国際法の父」と呼ばれる法学者とは？

①　ヒューム　　②　ライプニッツ
③　グロティウス　　④　アダム＝スミス

2　偏見に囚われた無知蒙昧な人々に理性の光を当て，従来の権威や先入観に基づく考え方から解放しようという思想を何というか？

①　末法思想　　②　啓蒙思想　　③　社会主義思想　　④　人文主義

3　イギリスのホッブズの著書を一つ選べ。

①　『リヴァイアサン』　　②　『人間悟性論』
③　『人間不平等起源論』　　④　『エミール』

4　イギリスのロックが正当化した革命とは？

①　科学革命　　②　ピューリタン〔清教徒〕革命
③　名誉革命　　④　産業革命

5　ロックは，所有権などを守るため，自然権は政府へ（　　　）されていると主張した。

①　譲渡　　②　信託　　③　一体化　　④　専有

6　モンテスキュー，ヴォルテール，ルソーなど，啓蒙思想は主にどの国で展開されたか。

①　ギリシャ　　②　イタリア　　③　イギリス　　④　フランス

7　三権分立を主張した，モンテスキューの著書は？

①　『国家』　　②　『三位一体論』　　③　『三経義疏』　　④　『法の精神』

8　『哲学書簡』を残した啓蒙思想家とは？

①　ロック　　②　ヴォルテール　　③　ダランベール　　④　ルソー

9　『百科全書』を中心となり完成させた人物とは？

①　カルヴァン　　②　パスカル　　③　デカルト　　④　ディドロ

10　ルソーのいう，個人としての私利私欲の総和を何というか？

①　全体的正義　　②　特殊意志　　③　全体意志　　④　一般意志

解答

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ③ | 2 | ② | 3 | ① | 4 | ③ | 5 | ② |
| 6 | ④ | 7 | ④ | 8 | ② | 9 | ④ | 10 | ③ |